

報告

「ごみ非常事態宣言を受け、“しみん”はどのように行動したか」

認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会
代表理事 永田秀和



名古屋市名東区平和が丘学区ではじめてリサイクルステーションが行われたときの記念写真 (1997.9)

私たちは行動します

1999年2月18日、名古屋市の「ごみ非常事態宣言」が出されました。市が出した減量目標は2年間で20万トンです。今度こそ、私たち「中部リサイクル運動市民の会」は、その存在意義をかけてやりきろうと、会の総力を上げ、この一か月間でごみ減量プランをまとめました。

1990年当時、西尾前名古屋市長が年頭の記者会見で、加速度的に増えるごみに対し、「ごみをできる限り出さない都市」への発想転換と徹底した再資源化を図る方針を打ち出しました。ちょうどそのとき設立10周年を迎えていた当会は、この計画に対し、「リサイクルシテイNAGoya バックアップ作戦」を掲げ実行することになりました。残念ながら、その効果は実質的な減量に及ばず現在に至っているわけですが、今回はこの教訓を生かし、市を「バックアップ」するのではなく、すべてのプランの主語を私たち「中部リサイクル運動市民の会」にしました。

誰かにしてもらおうのではなく、この街に暮らす市民として行動を起こします。もちろん、私たち22名のスタッフで名古屋市を変えることなどできませんが、3人のおかあさんが6千人の名東区平和が丘学区を動かし、リサイクルステーションを実施したように、今たくさんの人たちが自らの意志で行動を起こし始めています。私たちは、9年前とは違う確かな手応えを感じています。この行動する市民のうねりとネットワークを力に、全力を注ぎます。

この間、周りから「やるべきことをしていない」「だらしない名古屋市民」と言われてきました。しかし、名古屋はかけがえない自然、干潟を残すことにしました。後は、ごみを出さない街を名古屋市民が削り上げることです。一周おくれのトップランナーになるチャンスです。

私たちは行動を始めます。すべては一人の行動から始まります。

思っているだけではごみは減りません。行動を起こしましょう。でも無理なことをやる必要はありません。毎日のことですから、楽しく少しずつ、この2年間をかけてやってみましょう。

きっとその時、名古屋は変わります。自分たちの街を感じるようになるでしょう。



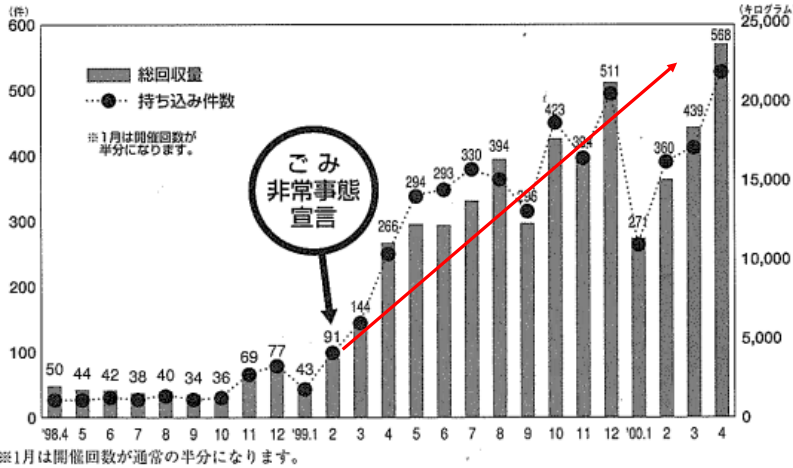
弊会が発行していた環境情報誌「E's」第5号

大きく動いた、この1年 1999年度は資源回収量4,270トン 対前年比は、6倍に

1999年の実績

- ごみ減量効果
4,270トン(総回収量)×5.06万円(名古屋市1トンあたりの99年度ごみ処理コスト)=2億1,606万円
- 市民利益
2億1,606万円(ごみ減量効果)-3,025万円(名古屋市助成金)=1億8,581万円
リサイクルステーションに持ち込まれた資源がごみになったとしたら、
2億1,606万円の税金で処理しなければなりません。

参考 98年実績
総回収量:710トン ごみ減量効果:3,578万円
市民利益:3,814万円



- 市民・・・資源分別持ち込み・回収現場の運営
- 企業・・・会場提供・現場運営協力・スポンサー
- 行政・・・会場拡大・事業協力金見直し
- マスメディア・・・開催告知チラシ作成と折り込み現場運営協力

当時のリサイクルステーションの様子



団体紹介



1980年10月、使い捨て社会や環境破壊への危機感から、「できるところから始めよう」と有志が集まって、空き缶を拾うことから活動をスタートしました。

誰もが活動に参加できるための「システムと場づくり」を進め、効率的な事業展開を図るため「五位一体」での事業運営を基本とします。また、財政面でも自立した「食べる市民運動」を目指します。

これまで、「不用品データバンク」「環境情報誌の発行」「フリーマーケット」「有機野菜の販売」「新聞古紙100%の再生紙普及」などの自主事業を実践してきました。

現在の主な活動

リユース&リサイクルステーション
(名古屋市内38か所)



JICA研修コーディネート事業



エコロジーセンター Re☆創庫
Re☆ショップ
(名古屋市内4拠点)



記念日植樹券事業

